



営農NEWS



水稻の育苗管理について

3 月に入ってから急に春らしくなり、桜の開花予想もやや早やまって平年並～やや早い 3 月末で、4 月初旬には満開になるとのことです。これからも寒暖を経過するものの、日に日に春の兆しとなっていきます。このため、今年も例年どおりの田植えの準備を始める時期となるでしょう。

水稻の育苗を始めるにあたって、種子や培土、育苗箱など播種までの準備については、「営農NEWS 第 2426 号（平成 28 年 2 月 26 日発行）の「水稻育苗の準備にあたって注意すること」を参照して行ってください。

ここでは、播種から育苗中における苗管理の注意点について紹介します。

1 播種

播種は、田植えの予定日より逆算して、コシヒカリで約 20 日前を目安に始めましょう

播種量は、育苗一箱あたり催芽粃で 170～200 g（乾粃で 140～160 g）とし、均一に薄く蒔きましょう
播種後の覆土前に十分な灌水を行い、覆土後に灌水は行ないません

2 出芽

出芽の管理は

積重ね法では 温度 28～30℃で 2～3 日間

平置育苗法では 昼間 30℃以下、夜間 15℃以上で 4～6 日間とします

なお、平置育苗法では根上がりを防ぐため覆土をやや厚めにし、保温性に優れた被覆資材をべたがけします

注 1 30℃以上の高温で、もみ枯細菌病などが発生しやすくなるので、温度管理は特に注意しましょう。

注 2 温度不足で出芽に長時間かかり過ぎると、苗立枯病が発生しやすいので注意しましょう。

3 緑化

白い芽が出揃ったら被覆資材を除き、2～3 日間かけて徐々に光にあてましょう

苗は急激な温度変化に弱いので、昼間 20～25℃、夜間 15～20℃とします

緑化直後に晴天の場合は、遮光資材などで一時的に遮光を行いながら慣らしさせていきましょう

注 1 緑化初期に強い光にあてたり、暗所日数が長すぎて苗が伸びすぎると白化しやすいので注意しましょう。

注 2 温度計はなるべく苗の近くに設置してこまめに検温し、管理するようにしましょう。

4 硬化

本葉 1 枚くらいになったら、その後は昼間 20～25℃、夜間 10～15℃で 10～14 日間を目安に適切な管理を
しましょう

かん水は午前中に行い、日中の高温時や夕方には避けて、夕方にはやや乾く程度のかん水量にします

注 1 水のかけ過ぎや換気不足などは、徒長や発根不足の原因となりますので注意しましょう。

注 2 育苗ハウス内の最低温度が 10℃以下になると、ピシウム菌やフザリウム菌による苗立枯病が発生しやすくなるので、夜温の低下に注意しましょう。

注 3 高温多湿になると、リゾーパス菌などによる苗立枯病が発生しやすいので注意しましょう。

注 4 2 葉期頃から移植期にかけて、低温が続いた後に急に高温になるとムレ苗が発生しやすいので、低温時には土壌をやや乾燥気味にして保温に努めましょう。

5 田植え前

田植え前になったら、苗を外気に十分慣らしましょう。

草丈 13 cm 前後で、葉数 2.2～2.5 葉の生育が揃い、根張りのよい、がっちりした苗に育てましょう

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040